

## 県民提案型協働創出事業 中間報告書

令和5年9月7日現在

実施団体名	特定非営利活動法人あきたパートナーシップ		
取組事業名	小さな拠点から大きなつながりへ		
採択年度	令和4年度（2年目）	採択申込金額 （3年間）	3,300,000円
事業概要			
<b>1 地域課題と事業目的</b> (1) 課題 少子高齢・人口減少、地域社会の脆弱化等の社会構造の変化に加え、長引くコロナ禍の影響もあり、生活困窮者、子どもの貧困、若者のひきこもりの増加など社会的な課題による様々な生きづらさを抱える人が増えている。 (2) 目的 この拠点が様々な生きづらさを抱えた人たちが安心して集える場所となり、仲間がいることや孤独ではないこと、お互いに支え合えることを実感できるとともに、支援を受けるだけでなく、居場所や役割を見つけ自信を持って社会参加できるようになることを目指す。			
<b>2 事業内容（課題解決の方法）</b> (1) 事業体制 ①「地域にある小さな拠点づくり協議会」 それぞれの立場から専門的なスキルと経験を活かしながら、切れ目のない支援ができる。 秋田県地域・家庭福祉課、秋田商工会議所、秋田県社会福祉協議会、NPO法人男鹿南秋教育会館、NPO法人あきた結いネット、NPO法人秋田育さぼドリームエンジェル、 (一社) フードバンクあきた、秋田県地域づくり推進課、NPO法人あきたパートナーシップ ②拠点づくりに向けて説明…秋田市・三種町・北秋田市 ③地域住民との連携を図るための情報交換（story cat 周辺） ・5年6月16日（金） 於：遊学舎 旭南自主防災組合連合会 会長 旭南地域は高齢の二人暮らしやシングルマザーの世帯が多い地域。 個人情報保護に配慮が必要。 ・5年6月20日（火） 南通町内会有志の会への事業PRを依頼 (2) 子どもの貧困対策として、地域食堂と学習支援の取組を中心に支援対象の拡大を図る ・「地域 コミュニティ食堂」…4月8日～5月27日第2・4土曜日（4回 240食提供） ・「地域 コミュニティ食堂+学びの場」 …6月10日～7月8日 第2・4土曜日（3回 170食提供） ・「炊き出し」…7月22日・8月5日・8月12日（3回 291食提供） ※学習支援の相談は2件あったが、利用者はまだない (3) 本事業の連携の必要性について学ぶ研修会（意見交換会）参加 ・5年1月30日・31日 於：東京都 主催 民間NPO支援センター・将来を展望する会（日本NPOセンター）			

## 内容

- 1 日目 NPO と行政の協働環境に関する全国調査から見えた協働の内容について意見交換を行った。中間支援組織の社会課題に対する役割について再認識する機会となった。
- 2 日目 孤独と孤立対策事業について  
地方においても官民連携プラットフォームの形成に向けた環境整備を進めている。  
支援者同士の連携について中間支援組織・NPO 支援センターの役割を再認識し、本事業の県内モデルとして発信しつつ、県内各地域に広げていく必要性を感じた。

### 3 実施スケジュール

<令和4年度>

- ・事業説明・協議会への参加依頼等
  - 10月14日(金) 秋田県社会福祉協議会 地域福祉・生きがい振興部
  - 11月20日(日) NPO 法人秋田育さぼドリームエンジェル
  - 5年2月21日(火) 秋田市子ども総務課
- ・協議会発足に向けて会議・地域(子ども)食堂の開催について
  - 5年2月7日(火) 秋田商工会議所、秋田県地域・家庭福祉課、地域づくり推進課
- ・拠点づくりに向けて事業説明
  - 11月1日(火) 「月猫の杜」(駄菓子屋)
  - 11月2日(水) 山の学校(マルシェ担当)
  - 11月9日(水) NPO 法人長信田の森就労支援センター
  - 11月20日(日) NPO 法人秋田育さぼドリームエンジェル
  - 5年2月5日(日) まちなかトープ
- ・拠点運営の試行として、地域食堂イベントの開催
  - 11月20日(日) 10:00~15:00 「story cat 駄菓子屋さん&マルシェ」  
駄菓子屋さん・地産地消コーナーを設け、昼食の提供(カレーライス50食)



駄菓子屋さん

マルシェ

<令和5年度>

- ・「地域 コミュニティ食堂」開催
  - 4月8日(土)~5月27日(土) 第2・4土曜日(4回 240食提供)
- ・「地域にある小さな拠点づくり協議会」開催
  - 5月19日(金)  
秋田商工会議所、秋田県社会福祉協議会、NPO 法人男鹿潟上南秋教育会館、  
NPO 法人あきた結いネット、NPO 法人秋田育さぼドリームエンジェル、  
向日葵の会、(一社)フードバンクあきた、秋田県地域づくり推進課、  
NPO 法人あきたパートナーシップ



・「地域 コミュニティ食堂+学びの場」

6月10日(土)～7月8日(土) 第2・4土曜日(3回 170食提供)

AAB 秋田朝日放送、ABS 秋田放送、秋田魁新報の取材を受けた。



・ 水害被災者支援 炊き出し

7月22日(土) カレーライス 110食

8月5日(土) 豚丼 110食

8月12日(土) エビピラフ弁当 71食+おにぎり 20個



※7月14日から16日にかけての記録的な大雨で、story cat 周辺の南通・檜山地域の住宅が床上浸水等の被害に見舞われたことから、「ストーリーキャット」では水害被災者支援する活動を行うことになり、オープンスペースは使用できなくなり「地域 コミュニティ食堂」の活動内容の変更をせざるを得なくなった。

協働団体

向日葵の会、フードバンクで寄り添う支援実行委員会、山の学校、上北手ふれあい加工所、「月猫の杜」(駄菓子屋)、(一社) フードバンクあきた、tread chestnut

<令和6年度>

5月 運営協議会開催

7月 研修会開催

4月から3月までコミュニティ食堂と学習支援事業を継続

※ニーズにあわせた支援活動を秋田県地域・家庭福祉課と連携し実施する。

4 この事業で見込まれる成果

(1) 一人暮らしの高齢者やシングルマザーなど、生きづらさを抱えている市民がこの場所に集い交流することで、寂しさや孤独感から抜け出すきっかけとなり参加者同士の関係性を育み前向きな生活が送れるようになる。

ボランティア活動等を通じて地域住民が主体的に関わることで、社会活動や多様性への理解が深まるとともに、生き生きとした元気な地域づくりにつながる。

(2) 県社会福祉協議会が立ち上げた「あきた子ども応援ネットワーク」と連携することで全県域の支援登録団体との情報共有が可能となり、他の地域への波及効果が生まれるほか、複合的な支援の実践が伴うことで新たな創意工夫が生まれやすい環境づくりにも貢献できる。

5 主な役割分担と協働

<実施団体>

秋田県地域・家庭福祉課、秋田商工会議所、NPO 法人男鹿潟上南秋教育会館、NPO 法人あきた結いネット、NPO 法人秋田育さぼドリームエンジェル、(一社) フードバンクあきた、アシスタ

<行政(県)>

秋田県地域・家庭福祉課、地域づくり推進課、秋田市子ども総務課

<協働の取組>

県や市町村、社会福祉協議会等の支援関係機関との連携は欠かせないものであり、県が持つ情報やネットワーク、調整力等のノウハウは必要不可欠。

様々な対象者への支援を目的としているが、個別支援の内容によっては行政やその他の支援につなぐ必要がある。その場合は行政との役割分担に応じた支援の連携が必要となる。

対象者への情報提供はもとより、地域住民や企業等の社会参加を促すためにも広くアピールする事が重要であり、県の社会的信頼性と広報力が事業の運営が円滑に進む。

**6 この事業の今後の課題と対応方法**

(1) 課題

- ・コミュニティ食堂は会を重ねるごとに利用者が増えリピーターも多いが、食事を提供することに時間を取られているため、個別の困りごとにしっかりと向き合う時間がとれていない。
- ・ニーズはあるようだが学習支援の利用者がいない。

(2) 対応方法

- ・会場の配置の関係で参加者同士の交流ができにくいので他の会場での開催も予定
- ・社会福祉士、保健師会、精神保健士度の協力を得て相談に対応していきたい。

**7、その他**

<寄 付>

秋田矢留ライオンズクラブ様のほか、地域の個人の方からも多数いただいております。誠にありがとうございました。

**(参考) 公開報告会における主な審査委員講評**

- 7月の大雨被害による影響を考えると、今後、より求められる事業であると思います。災害支援から平時の支援に移行していく中で、元々目指していた生きづらさを抱える人たちへの支援活動やそのための枠組みを大事にすると良いのではないかと感じました。
- 居場所づくりに取り組む場合、どうしても特定の属性の人への支援となる傾向がありますが、誰でも立ち寄れるオープンな空間となることを目指してほしいです。そして、その場所が県内に複数展開されることを期待しています。
- 引き続き、県との協働に取り組んでもらうことはもちろんのこと、地域住民や地域商店街などと連携を深めて、幅広い協働の取組となることを期待しています。